

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400663		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき福崎		
所在地	(〒 679-2203) 兵庫県神崎郡福崎町南田原757-1		
	電話	0790-24-5600	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年4月8日	評価確定日	平成20年7月24日

【情報提供票より】 [平成20年3月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	12人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算12.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金の有・無	有り ( 円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成20年3月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性8名) (女性10名)	
要介護1	13名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均83歳 … (最低77歳) (最高92歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田クリニック	よしだ歯科
---------	---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「福崎」駅から車で10分、民家と田畑が混在する閑静な環境にある。ホームの敷地は広く、敷地内をのんびり歩くだけでも、よい運動になる。運営推進会議をきっかけに、地域住民との交流も広がってきた。地域の清掃活動への参加、ホーム主催のバザーの開催も、地域の方から感謝され、また、種々のボランティアや中学生の職業体験学習の受け入れも積極的に行なうなど、利用者にとって、ホーム外の人たちと接し、交流する機会が多く持たれている。年度毎にホームの運営事業計画(7項目)が立てられ、職員が取り組む業務の指針になっている。職員の結婚披露パーティーをホーム内で開催するなど、利用者と職員が「ともに暮らす家族」であることを強く意識し、これが実践されている。 ◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①介護計画の見直しについては3か月毎に行なうようになった。②職員連絡ノートの改善は現在実行中。③個別ケアの重視については、センター方式を取り入れながら書式の見直しも含めて取り組んでいるところ。④カロリー計算を行なっている(主にカロリー制限のある利用者について)。⑤ヒヤリハット用紙を簡略化したことで多くの事例が提示されるようになり、未然防止に役立っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 1人の職員が代表して記入したものを施設長が確認し、まとめ、全職員に回覧して周知した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者代表、利用者家族、自治会長、地域住民、地域包括支援センター職員の構成により、定期的に(2か月に1回)開催し、ホームの現況や行事予定などの報告が行なわれている。家族に対して「運営推進会議」の趣旨周知及び会議内容の報告は、なされておらず、今後の改善が求められる。会議メンバーが固定化されてきたため、意見も出にくくなってきており、メンバーを見直す予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月、ホーム便り「福咲の風」を発行し、担当職員がホーム内の様子を書いた個別の便りとともに送付している。年に1回開催される家族懇親会で、日常の様子を撮影したビデオを鑑賞し喜んでいただいた。相談や苦情受付窓口を知らない家族が少なくないので、周知をお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 近くの神社の清掃、ホーム主催の夏祭りや地域交流バザーへの地域住民の招待、地元スーパーや喫茶店の利用、中学生による「トライやるウィーク」や住民ボランティア(生け花・コーラス・民謡)受け入れ…等々、地域との交流が、より深まってきている。

◎食事を楽しむことのできる支援  
食事の準備、後片付けを協働で



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
利用者の手作り作品  
(得意な木工で…)



◎食事を楽しむことのできる支援  
食事メニュー

作った料理の 献立表		2月					
	2/25 月	2/26 火	2/27 水	2/28 木	2/29 金	3/1 土	
朝食	ご飯(180kcal) やわらかい(50kcal) 白飯のり巻(180kcal) 梅干(23kcal)	鶏パン(200kcal) ヨーグルト(60kcal) キノコ炒め(75kcal) カフェオレ(80kcal) プロヨーヨー(20kcal)	ロールパン(200kcal) ヨーグルト(50kcal) ホットミルク(50kcal) ほうろく(10kcal) ほうろく(10kcal) ほうろく(10kcal)	ご飯(180kcal) やわらかい(50kcal) お粥(100kcal) 味噌汁(50kcal)	ロールパン(200kcal) ヨーグルト(60kcal) サラダ(20kcal) オレオレ(60kcal) カフェオレ(80kcal)	ご飯(200kcal) ヨーグルト(50kcal) かき揚げ(100kcal) 110kcal) ホットミルク(30kcal) バナナ(40kcal)	
おやつ							
昼食	キッズうどん(400kcal) バナナ(250kcal) 漬物(10kcal)	グワタン(323kcal) キャベツサラダ(100kcal) 味噌汁(110kcal)	牛豚丼(570kcal) ワンタンスープ(100kcal)	サンドイッチ(180kcal) 残り野菜スープ(50kcal)	三色丼(480kcal) わかず(70kcal) リンゴ(60kcal)	高野豆腐(115kcal) キュウリとわかず(40kcal) 味噌汁(50kcal) ご飯(180kcal)	
おやつ							
夕食	ナスカレーライス(778kcal)	味噌(200kcal) ひじき(200kcal)	キャベツメンチカツ(504kcal)	納豆(200kcal) 白飯(200kcal)	サケの照り焼き(159kcal)	マカロニサラダ(142kcal)	

◎その人らしい暮らしを続ける  
ためのケアマネジメント  
ヒヤリハット報告書



◎利用者と共に過ごし支えあう関係  
ホームでの「職員の結婚披露宴」



◎日常的な外出支援  
◎地域とのつきあい  
近所の神社での清掃活動も







▲ ホーム外観



▲ 居室の名札の工夫



▲ 共用スペースの飾り付け ▲

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「えみがこぼれる家庭…それが私のほこりです」を基本理念に、毎年事業計画書を立案し、施設基本方針の中で「一人ひとりのニーズに沿った個別ケアサービス」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、法人理念に基づいてそれぞれの個人目標を「マイチャレンジ」に設定している。事業計画書で全職員が理念や方針を共有することによって、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民との付き合いが広がってきている。神社の掃除参加や地元スーパーや喫茶店の利用、また、地元の方をホーム主催での行事に招待したり、と近隣住民との交流を図っている。	○	ご家族からの要望でもある「子ども達」とのふれあいの機会も実現に向けて尽力願いたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果をもとに、職員会議で改善点を話し合い、徐々に改善を行なっている。評価結果は、ホームページ上でも公開している。第三者評価の意義等が正確に伝えられていない部分が見受けられ、家族等への説明も不足している。	○	第三者評価を実施する意義およびその活用方法等を関係者全員に知らせてもらいたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催されている。会議ではホームの現況や行事予定等の報告がされている。家族に対して「運営推進会議」の意味や会議内容が報告されていない。	○	特に家族等に対して運営推進会議開催の意味合いを伝えるとともに、会議議事録を送付するなど家族等を交えた情報の共有が求められる。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催のサービス事業所会議が不定期に開催されており、出席している。役場の健康福祉課を時々訪問し、情報交換を行なうこともある。町ぐるみで防災マップを作る計画があり、これに協力する予定である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームで毎月発行の「福咲の風」と「個別便り」を送付している。「福咲の風」はホーム内や行事の写真を中心に構成され、日常の様子が分かりやすい。年に1回の家族懇親会では、日常の様子を写したビデオを流し好評を得ている。家族会には9割の家族が出席している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートから、相談や苦情の受付窓口を“知らない”と回答する家族が多い。職員間での情報共有ツールとして連絡ノートがあるが、連絡事項が伝わっていない場合も見受けられる。	○	相談・苦情窓口について家族等に対して、改めてアナウンスしてもらいたい。職員間の連絡体制を見直してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動がある場合には、利用者とその事実を伝え、家族等への案内もその都度行ない、職員に対しては慣れるまで勤務調整を図っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人(ほおずき)として、特別講習会、新入社員研修、主任研修、施設長研修、エリア別研修会などの研修等が豊富に提供している。ホームとしては、職員が勉強したいテーマをホワイトボードに自由に書き込むこととし、介護技術を中心とした勉強会を開催している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ほおずきグループでは定期的に情報交換を行なっているが、自主的に同業者間での集まりなどは開催されていない。役場の健康福祉課が情報交換の機会を作り、同町内の3事業所が集まる予定になっている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人や家族等にホームを訪れてもらうことによって、ホームの空気を感じてもらっている。職員は利用者宅へ出向いて、現在の生活状況やこれまでの様子を聞き、不安なことを把握するようにしている。入居初期には職員とできるだけ多くのコミュニケーションを取ることで、ホームの雰囲気に馴染んでもらうように支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活や行事を通して、各職員は利用者の得意としている事を教わる姿勢を持ち、本人の出来ないことは支援し、一緒に作業を行なっている。ぬか漬け作り、菜園の水やりや手入れのほか日常家事全般に利用者と職員が協働している。つい先日はスペシャルイベントとして多くの方に囲まれて、職員の結婚披露宴をホームで行なった。</p>		




外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報カードに基づいて利用者情報を共有し、本人や家族の意向を把握しながら、できるだけ本人が望む生活を継続できるように支援している。利用者本人同席でのカンファレンスを行なうこともある。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントおよび「できることできないことシート」に基づき、利用者、家族、担当職員、ケアマネジャー等の意見をまとめて、利用者の希望を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の入居者の様子は、個別ケース記録等に記録され、それらをもとに毎月モニタリングを兼ねたカンファレンスを行ない、3ヵ月毎に介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスの稼働時間外には、グループホームの職員・利用者と、デイサービスの職員・利用者間での行き来もなされ、ホームの利用者にとって地域の人たちとの交流の場にもなっている。デイサービスの稼働時間外にはグループホームの利用者もデイサービスの大浴場を利用できるなど、設備面においても多機能性を活かした支援を心掛け、実践されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ホームの協力医療機関に変更していることが多いが、本人や家族の希望で家族が受診付き添いをする事によって、従来のかかりつけ医を受診している。協力医は定期的に往診にきてもらっており、電話相談なども受け取られるようになってきている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、個別に家族や医療機関と相談をしながら方針を決定し、個別支援記録に記録している。看取りについてはホームで可能かどうかを検討中である。	○	事業所としての方針および方向性については、全利用者家族に対して文書等を用いて説明されることが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行わない様、職員間で注意を払っているが、定期的な研修等は行なわれていない。記録書類については別室の施錠可能なロッカーに保管している。	○	プライバシー確保に関する研修は事業所内で定期的実施することが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を基本に、その人の得意とする日常生活上の役割を持ち、利用者一人ひとりのペースに合わせた生活を支援している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と職員が準備から片付けまで一緒に行っており、月に1回個別に職員付き添いのもと外食に行く機会を設け、好みに合わせた食事をとってもらっている。2カ月に1回、キッチンを居酒屋風にし、職員や利用者が全員参加のもと、普段とは違った雰囲気ですべてを楽しみむ工夫をしている。摂取カロリーも献立表に明記している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3日に1回の入浴を基本とし、入浴曜日は特に決めていないが、入浴時間は日中に限られている。月に2回はデイサービスの大浴場を利用し、銭湯気分を味わってもらう工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの得意分野を活かせる場を提供している。例えば中国語の講義をしたり、リビングに掛ける木製カレンダーを手作りしたり…。また、四季の行事(雛祭り・七夕・花火・クリスマス・正月行事など)をホーム内で開催し、祭り・紅葉見物・花見など、毎月、外出している。年に1回は日帰り旅行を企画し、2ユニット合同で出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、近くの神社、町内での買物、などに出かけており、外出する利用者がいつも同じにならないよう、職員の声掛けに配慮が見られる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者各々の行動パターンを把握し、出入口は人の出入りでチャイムが鳴るようにしており、日中は施錠を行わず、常に出入りできるよう玄関を開放している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	急変時・事故発生時マニュアルを整備し、年に2回の避難訓練を行なっている。昨年度はA.E.D.の使い方講習も行なった。地域住民も参加するような避難訓練までには至っていない。	○	運営推進会議などの場も利用して、地域住民と一緒に避難訓練を行なってもらいたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量や水分摂取量、排泄状況、入浴状況、バイタル等を日々記録している。中でも食事摂取量や水分摂取量が少ない利用者については詳細を記録し、好みや栄養状態の把握を行なっている。摂取カロリーについても大まかに数値把握されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周囲は庭になっており、多くの木々や花に囲まれ、散歩するにも丁度良い環境である。玄関やリビングの共用部の壁には「1年の笑顔」と題した写真館や利用者の作品を飾り、楽しめる空間作りがされている。ベランダには花壇、中庭には畑を作り、自由に作業ができるようにし、2階ユニットでは職員室をできる限り開放して、入居者がいつでも自由に過せる空間にするなどの工夫をしている。現在、温度差(浴室・トイレ)解消のための改善策を検討している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った作品、大切にしていた物、家具や調度品、食器など使い慣れた物を持ち込み、本人が安心して過ごせる空間作りをしている。利用者のADLの変化に合わせて部屋を洋室(ベッド)から和室(畳敷き)へ変更するなど臨機応変に対応している。		

※  は、重点項目。